

拡大・増強セミナーに出席して

ガバナーノミニー 脇坂 順一

去る7月2日と3日の2日間に亘って、東京の帝国ホテルに於て、1985-86年度、国際ロータリーアジア第1、第3ゾーン各地区の拡大と会員増強のためのセミナーが行われた。当270地区からは、初日には拡大委員の吉田一芳氏（八幡中央）、2日目には会員増強委員の陶久亨氏（福岡）とそれにオブザーバーとしてGNの私が2日間出席した。

初日の7月2日は拡大の（即ち新クラブ数を増やす）ためのセミナーで、モデレーターは蔵並定男PG（259地区）であった。

まずモデレーターの歓迎の辞にはじまり、次いでカドマンRI会長からのメッセージが発表された。参加者全員の自己紹介、伊藤恭一新理事の挨拶があった。

まずRIの拡大の現況について過去7年間の日本の地区別新クラブ数は、7月2日現在で前年度即ち1984年7月～85年6月迄の1年間に増えたクラブ数は42となっている。全世界に於けるクラブ増加数は1984年6月30日から1985年3月末までの9ヶ月間に436のクラブが誕生しており、我が国はアメリカ、インド、ブラジル、メキシコに次いで第5位であった。

その後7月25日付のピグマン事務総長からの書翰によると年度末（6月末）に於てはアジア地区では240→306（66クラブ増）、世界全体では774→968（184クラブ増）となっており心強く思った。因に新クラブの約80%は既存クラブによって割譲された地域、或は既存クラブと共有する同一地域内に結成されているようである。特に320地区（インド）や417地区（メキシコ）など26の新クラブを作った由で、感謝の言葉が添えであった。

次いで拡大についての討論が行われ参加者による活発な発言があった。その後「ロータリー奉仕の話」というテーマのスライドが約45分間

上映された。そして15分間の休憩の後、参加者の発言の時間に移り、「私の地区に於ける拡大の現況と私の考え」というテーマのもとに全270地区の拡大委員の方々が夫々発表された。先ず「拡大の可能性」については、各地区とも1～5クラブを作ることに努力しておられるようで、1分区に是非1つ増やすと云う地区もあり、我が270地区では吉田委員が「宗像、福岡（土曜日に例会を行う）、中間、八幡、大牟田地区に、計5クラブを新たに作る計画がある」旨述べられた。

次いで「拡大に関する意見」として地区毎に色々な発言があった。例えば、ライオンズクラブに食われて困っているとか、拡大はガバナーの熱意如何による。ガバナーが動かないと拡大は困難である。或は設立の資金負担に不安があるとか、又、「RCを会員相互の親睦の場とするだけでなく、会員の人生上の諸問題、事業経営上の諸問題について、自己研鑽、相互啓発をして、他の会合では得られないメリットを感じるように努力をし、地域に溶けこみ、RCに対する認識を深める努力をすることによって、拡大の道は招かれて行く」との意見は印象的であった。その他、拡大は大変むづかしい、と云う意見も少なくなかった。又、ガバナー出身地に新クラブは出来易いようだ、とか、やる気になれば出来る、とか、クラブ会長の決心を振り立たせること。拡大の意義を十分に認識し、やる気と困難に立ち向う気概があれば必ず出来る。など色々な意見が出された。

翌7月3日は会場も前日と同じく帝国ホテルに於てモデレーター今井鎮雄PG（神戸西クラブ）、アドバイザーとして伊藤恭一RI理事のもとに「会員増強セミナー」が始まった。270地区からは福岡クラブの陶久亨委員と私が出席した。

先ずモデレーターの今井氏から、カドマン会長及びピグマン事務総長から参加者に対するメ

ッセージが昨日と同様に披露された。その中で特に強調されたと思われたことは、最近迄の奉仕団体では殆どその成長が見られないが、ロータリーは今も成長を続けている。然し、過去2～3年の様子を見ると、その成長の殆どは新クラブの設立に依存する会員増強で、既存クラブの増強によるものではないことを指摘され、最近のこの傾向を変えるに当たって皆さん1人1人が「鍵」となって欲しい、と云う内容であった。

これを受けて今井モデレーターは、ロータリーの発展は会員増強が最優先することを強調し、具体的な%は示さないが、既存クラブの増強に努力することを要望され、又一方では如何にして減少を喰い止めるかについても大いに考えなければならぬ。増強のエネルギーこそ、ロータリーの奉仕の源泉であることを強調された。

次いで、各地区の出席者から増強についての意見や質問がなされたが、以下主な内容について述べることにする。

1. 如何にして辞めさせないかについて真剣に考慮する。入会者を失望させてはいけなさと云うこと。

2. 量か質かについては以前から論議が絶えないが、クラブそのものの質を向上させることの方が大切だ。

3. クラブの会員数を云々するのもよいが、平均在籍年数も重要な課題である。或るクラブでは平均14年と云っていた。

4. ロータリーは人間の集団であるから、いろんな性格の人がいるのは已むを得ないが、寛容の精神が極めて大切である。そして御互に親睦を深めて行けば、退会者も減ることになる。要するにクラブに魅力を感じさせることが大切である。

5. 拡大・増強委員に卓話を依頼して、会員にその認識を深めて貰うとよい。

6. 初めから良質の者だけを選考することは困難であるから、少々欠点がある人でも良質になるよう助け合うのがロータリーの使命である。例会場は会員の人格の錬成場と云われる所以もここにある。

7. 転勤者の後任を必ず探すことを地区大会で決議したと云う地区もあった。

8. 増強は会長の熱意次第である。拡大・増強セミナーをしばしば行って、これの必要性の認識を昂めるとよい。

9. 増強月間を新たに設け、会員総てが増強委員であると云う気持ちにさせること。

10. 老年者が増える傾向があるから、若い有能な人を努めて沢山入会させること。クラブの若返りが必要である。

11. 264地区の増強委員長井元氏は非常に真剣にこれに取り組んでおられ、発言する代りに自分の意見を詳細に4枚に亘って印刷して配布して下さった。

要するに発言や討論に熱が入って時間が不足となり、十分に意を尽せぬ感があったが、非常に熱のこもった4時間であった。時間の長さを全く感じさせない有意義なセミナーで、予定時刻の16時半に終了した。私自身これまでこの方面に関心が不足だったことを強く反省させられると共に、大きな刺激を与えられ、奮起を促された次第であった。

